

フィールド
レポーターだより!!



2006年度 第1回調査

「オオヨシキリ調査」結果報告

暑かった夏ももうずいぶん昔のことのようにですが、初夏から夏にかけて、皆さんで調査したオオヨシキリの結果が出ました。調査した皆さん、まとめを担当した多胡さんやフィールドレポータースタッフの皆さん、どうもお疲れさまでした。

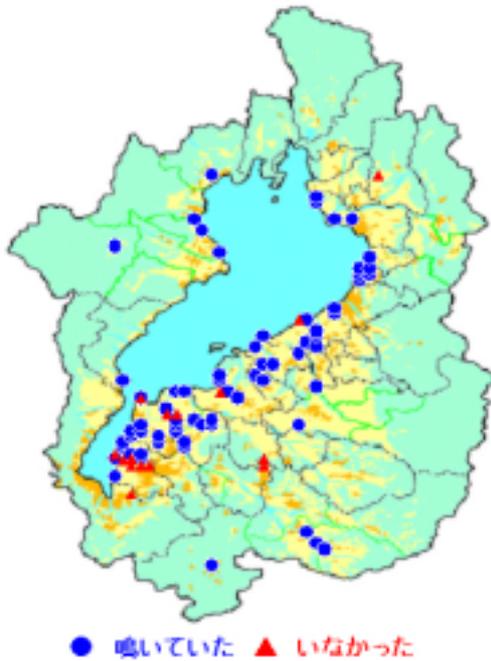
今回の調査では、県内全体のオオヨシキリの分布や飛来や飛去時期の他に、「どんな環境にいるのか」にポイントをしぼった調査を提案しました。「オオヨシキリの数は何によって決まるのか？ヨシ原の大きさや幅によって決まるのか？」という謎は、鳥類学者の間でも議論になってきた疑問です。結果は、やはり大きなヨシ原ではたくさんのさえずりが聞こえるというものでした。でも、小さなヨシ原にも、意外とたくさんのオオヨシキリが住んでいそうだとということもわかりました。もしかしたら、ヨシ原の大きさばかりでなく、実はその周りの環境も、オオヨシキリにとって重要なのではないのでしょうか？そこで、オオヨシキリの鳴いていた環境と、その周りの環境に関係があるかどうかを比べてみました。すると、琵琶湖岸の場合は同じ湖岸ばかりだったのですが、河川や水路、その他の環境では、周りに水田が多いことがわかりました。これはなかなか興味深い結果です。水田は、オオヨシキリにとってよいエサ場になるのかもしれませんが、また別の要因が関わっているのかもしれませんが。ヨシ原と水田が、滋賀県のオオヨシキリ分布のキーワードとなりそうです。

最後にもう一つ、結果の分布地図を眺めていて初めて気がついたことがあります。どことなく見たような分布の形…と思いながら、博物館の特別研究員のMさんと話をしていたら、「あれ??これは??」さて、なんの形と似ていたのでしょうか？答えは交流会の時にでもお話ししましょう。もしかしたら、他にもいろいろな生き物や、生き物以外の要素と、なにか意味のある関連があるかもしれません。いろいろなネタが出てきそうに思います。気がついた方は、ぜひまた来年調べてみませんか？

琵琶湖博物館鳥類学担当学芸員 亀田佳代子

2006 年オオヨシキリさえずり調査集計結果報告

FRS 多胡 好武



アンケート回答数について

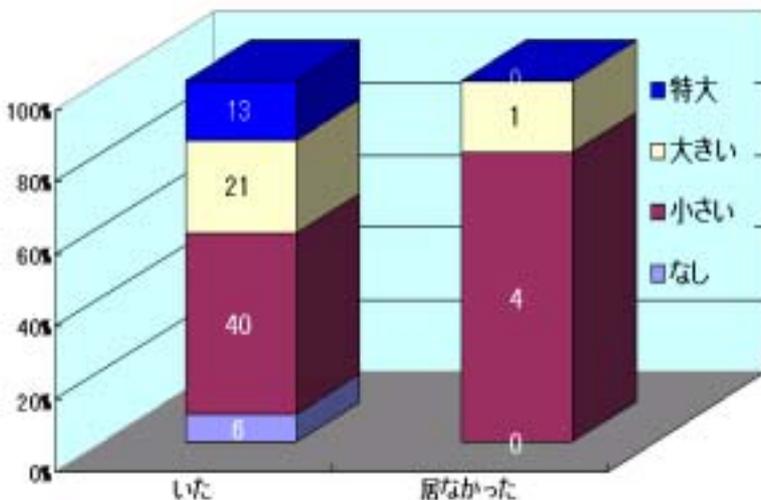
アンケート総数は14市から108件の回答がありました。

草津市 24、守山市 20、野洲市 13、彦根市 10、近江八幡市 8、高島市 6、米原市 6、甲賀市 5、東近江市 5、長浜市 4、大津市 2、湖西市 2、八日市市 1
内、第1回飛来調査及び第2回飛去調査でさえずりを確認した件数 98 件
さえずりが確認できなかったもの 12 件

2. 鳴っていた場所での鳴き声の数

オスの縄張り意識は強くそのテリトリーがどれ程の面積か？
ヨシ原の広さとオオヨシキリ(オス)の鳴き声は比例するようである。

鳴っていた場所とヨシ帯の大きさ



ヨシ帯の広さと、鳴き声の関係

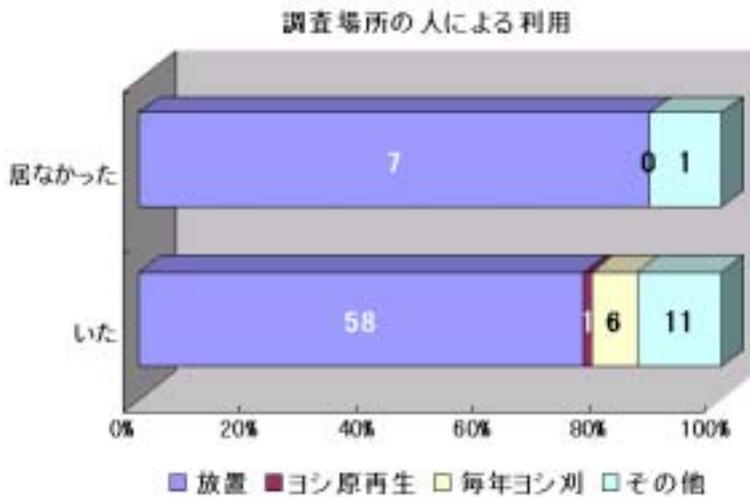
オスと番となるメスは、当然産卵、子育てと繁殖場所には生息環境が整った場所、つまり大きなヨシ原を中心とした場所の巣を中心に選ぶと推測される。

オスの縄張り争いも当然その辺りで「行行子」となる。
(居なかった大きいヨシ帯で別調査票では確認の報告あり)

3.ヨシ帯の大きさと鳴いていた数

ヨシ帯なし、小さいヨシ帯、大きいヨシ帯では、8割以上の地点で5羽以下だった。特大ヨシ帯での報告は少ないが、5羽以上が鳴いていた割合は半分近かった。

小さいヨシ帯の方が数の確認が容易であるのか、鳴いていた数の観察地点は、小さいヨシ帯で一番多かった。



4.人の手が入っているか

オオヨシキリの生息環境に最適なヨシ帯とは？

人の手が入り管理されたところは、必ずしも適した環境とはいえないようだ。

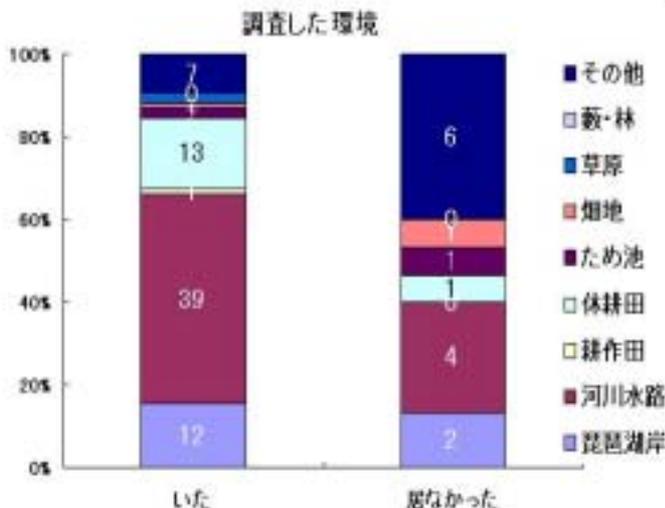
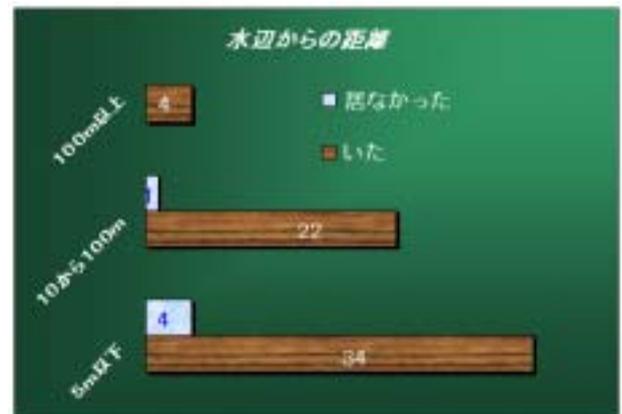
ヨシ刈りをしないと前年のヨシが残るため、早い季節ではそういう場所から縄張りが出来るといふこともある。

5. 水辺からの いた

いない

営巣はヨシを絡ませた上で行うことから、水辺に多く生えるヨシ帯やその場所のエサの豊富さに影響されるのでは。

今回距離の幅が大きかったデータでは 15~20mが多かった。



6. 調査環境

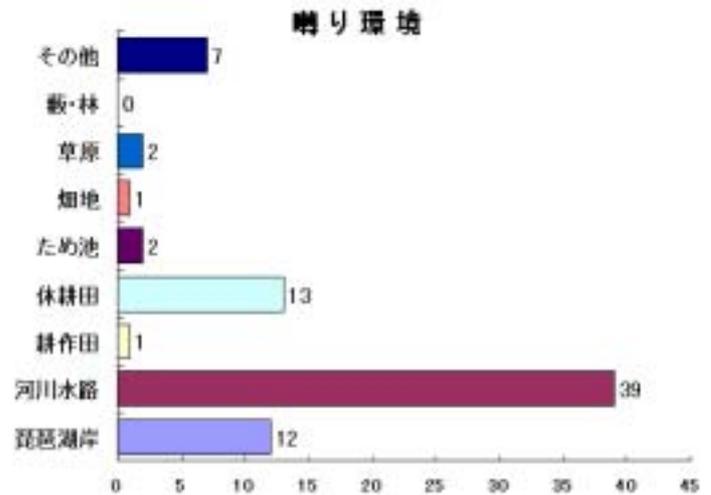
いた いない比

居なかった場所でもっとも多い「その他」はヨシが生えていても近くに大きなヨシ原が確認できないような所や、その時は「確認できず」であるが他の調査票で「確認」されているものもある。

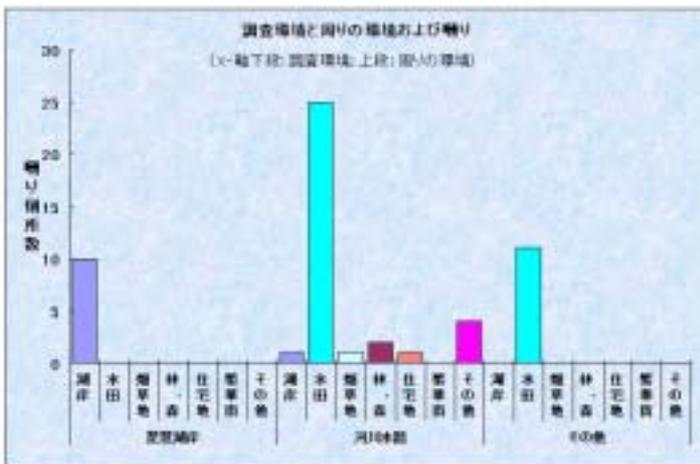
7. 鳴っていた環境

河川水路での調査が圧倒的に多かった。

河川の水量は少く、堆積物に草木やヨシが生えている所が結構多いように見受けられ、そのようなヨシ帯では容易に確認できたのでは。



8. 周りの環境と さえずり

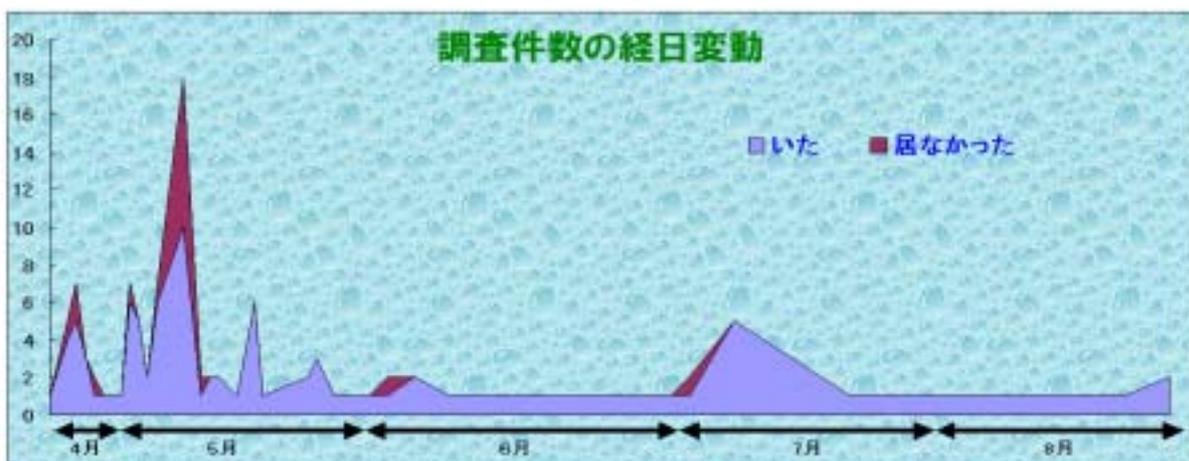


琵琶湖岸、河川水路、その他と3箇所から見た鳴っていた周りの環境状態。

琵琶湖岸は他の環境が報告されませんでした。それ以外はやはり圧倒的にまわりは水田となるようです。

9. 調査の経日変動

4～5月と7月に調査が集中しています。

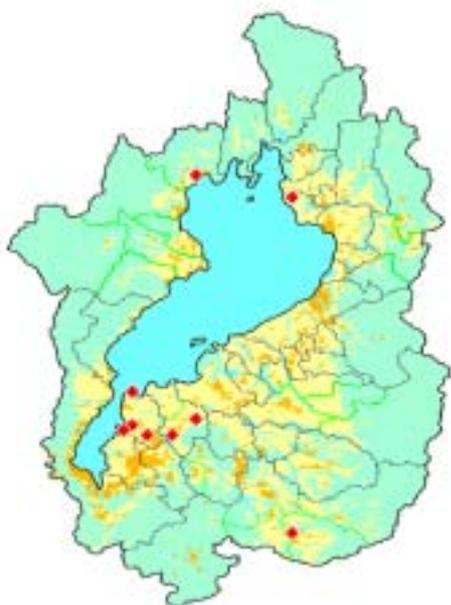


第1回調査票と第2回調査票を送った直後でみなさんが一斉に調査に出かけて下さった影響もあると思いますが、4～5月はオオヨシキリの飛来時期であり、メスを迎える準備で「行行子」の声が最も大きく昼夜を問わず鳴く時期でもあり確認は容易と思われる。居ない場所はひっそりとして、これも判断しやすかったと思います。

10. 8月31日現在

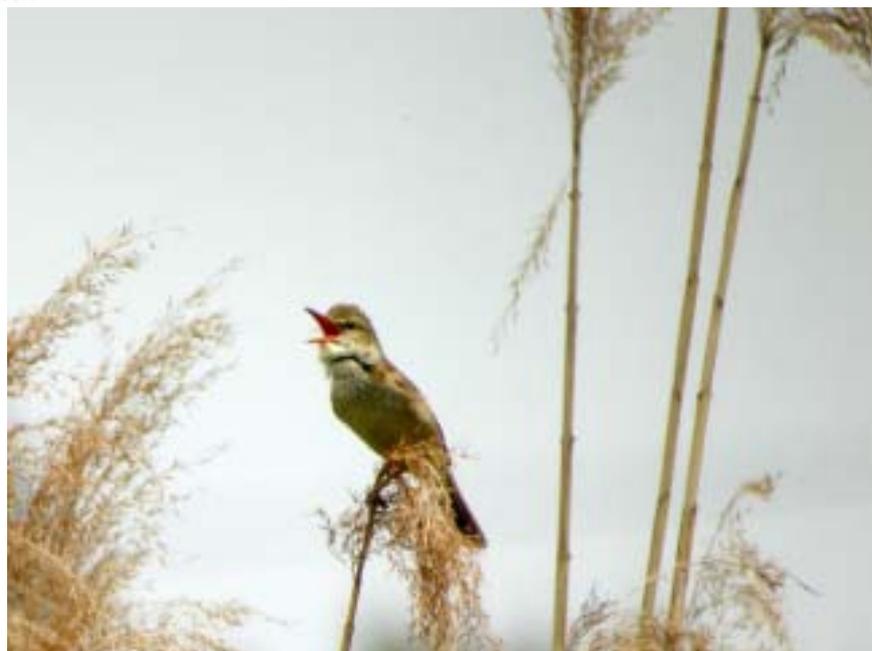
「聞こえなくなった」の調査報告

飛去調査による飛来確認後
鳴声が聞えなくなった地点



8月31日が第2回飛去調査の締切でしたが、飛来調査時期に比べ調査時の暑さや、オオヨシキリの独特の鳴き声「行行子」の連呼が聞こえず、「地鳴き」での確認と、判別しづらい状況が調査票の減少要因でしょうか？

調査方法、調査時期についてはこの次の課題としたいと思います。



「オオヨシキリ調査」を振り返り

4月下旬、「オオヨシキリ」の飛来を告げる「行行子」の鳴き声を聞いたという報告が次々と送られてきました。

南から渡ってきた「オオヨシキリ」のオスが縄張りを主張、必死に求愛を続け鳴いている。5月頃、あちこちでけっこうけたたましく鳴いているのに「2005年滋賀県レッドデータブック」によると希少種の中に「オオヨシキリ」が含まれています。

その理由とは、生息・生育状況の推移からみて、種の存続への圧迫が強まっていると判断されるもの。具体的には a, 個体数が減少している。 b, 生息・生育条件が悪化している。が選定理由である。

各地で開発や埋立の為、ヨシ原が減少、また残されたヨシ原も分断され、繁殖に大きな影響がでていることが減少要因とされ、保全策としては、より多くのヨシ原を残すとともに、失われたヨシ原の再生、復元が必要である。（なお、近畿では準絶滅危惧種）

ヨーロッパでは個体数が減少して絶滅危惧種となっている国もいくつかあるとのこと。

昔から俳句の季語にもなり親しんできた夏を呼ぶ渡り鳥、後世まで渡ってきて欲しいですね。

最近ようやく琵琶湖のヨシ原が果たす重要な役割に気付き、ヨシ原復活が推進されてきたことから「オオヨシキリ」も徐々に増えることを期待したいものです。

次回調査時、今回の調査と比べより多くの場所で「行行子」の鳴き声を聞きたいものです。



オオヨシキリさえずり調査

4月終り頃、湖岸のヨシ原では「ギョギョシ、ギョギョシ」のさえずりが聞こえます。声の主は渡り鳥 **オオヨシキリ** です。

オオヨシキリは、水辺のヨシ帯(ヨシなどの抽水植物)にすみ、巣を作ります。スズメ目ウグイス科で体はスズメより少し大きく、鶯の羽色をばかしたような淡いオリーブ色をしています。ヨシ原になわばりをつくり、大きな声でさかんにギョギョシ、と鳴くため、その鳴き方から「行々子」とも呼ばれます。



(参考) オオヨシキリとそのさえずりは、「生物と環境館・鳥の鳴き声が聞けるHP一覧」(http://www.kawanavi.net/seibutu_007.html)でご覧になれます。

調査期間中は、お電話でもオオヨシキリの声聞くことができます。

ぜひ活用して下さい。 電話: 077 - 568 - 4844

(音声データ; 収録: 千葉県立中央博物館 録音: 大庭照代・黒田治男)

今回の調査では、滋賀県内のオオヨシキリの分布について調べてみたいと思います。特に、オオヨシキリがすむ環境はどんなところなのか、少し突っ込んで調べてみたいと思います。また、興味のある方は、他の生き物との関係や、例年冬に実施されるヨシ焼き行事との関係など、人との関わりについても調べてみると、面白いかもしれません。

今回は飛来時期と飛去時期についても調べたいので、同じ場所で5月31日以前と、それ以後8月31日までの2度の調査をお願い致します。

<調査のポイント>

- ・ 姿ではなく、「声」で調べましょう!

オオヨシキリは、「声はすれども姿は見えぬ」の鳥です。でも、なわばりをつくってそこでさえずるので、近づかなくても居場所はすぐにわかります。今回は、鳥の特徴である「さえずり」の声を使って、調べてみて下さい。

- ・ ちょっとした水辺でも調査 OK!

皆さんのフィールドが湖岸のヨシ原でなくても、近くの池、沼、休耕田などでオオヨシキリのさえずりに耳を傾けてください。もちろんヨシ原の観察が出来る方は定期的に同じ場所での観察もお願いします。

- ・ 「いなかった」データも送って下さい!

オオヨシキリがいない場所の報告も大切です。せっかく調べたのにいなかった、とがっかりせずに、いなかった場所の環境についても、調査用紙に記入して送って下さい。いなかった場所がわかるからこそ、いた場所がどんなところなのかがわかってきます。

<メモ>

オオヨシキリのさえずりの中に郭公(カッコウ)のさえずりが聞こえた場合、それは郭公の托卵する可能性があります。面白い観察が期待できそうです。(郭公がオオヨシキリの巣に托卵することはよく知られています。)

またオオヨシキリの声は初夏を告げる風物詩であり、俳句でも夏の句として

葎切や揺れつつも鳴く葎のさき	秋桜子
葎切のきよらなる巣に葎の影	秋桜子
葎切のこ糸のとぎれに風も絶え	春一 などがあります。

オオヨシキリさえずり調査票(1回目)

(調査用紙は、調査場所ごとに別々にご記入下さい。)

氏 名: _____

調査場所:メッシュコード:

--	--	--	--	--	--	--	--

_____ 市 町 _____ 番地 _____

(調べた場所をできるだけ詳しく教えてください。)

目印になるもの(橋とか構築物):

調査日時: __月__日 : AM ; PM__時 ~ __時 : 天候 ; _____

調査項目(各該当項目(イ、ロ、…)を で囲んで下さい)

1) 調査した範囲で、オオヨシキリの声を見ましたか？

イ; はい ロ; いいえ

2) 調査した範囲では、過去にオオヨシキリの声を見ることがありますか？

イ; なし

ロ; ある 毎年 ; _____ 年前

3) 査地で確認できたオオヨシキリの数？

イ; 0. ロ; 1. ハ; 2~5. ニ; 5~10. ホ; 10 以上

4) 調査した環境は？

: イ; 琵琶湖湖岸 ロ; 河川・水路(幅_____m) ハ; 田んぼ(耕作中)

ニ; 田んぼ(休耕田) ホ; ため池 ヘ; 畑地 ト; 草原 チ; 藪や雑木林

リ ; その他()

: 水辺からの距離は_____m

: イ; 人がほとんど入れない ロ; 人が入れる ハ; 車道があり交通量(多い・少ない)

5) 調査した範囲(オオヨシキリがいた場合はオオヨシキリがいた範囲)には、ヨシ帯はありましたか？

琵琶湖博物館フィールドレポーター 2006年度 第1回調査

オオヨシキリさえずり調査票(2回目)

(調査用紙は、調査場所ごとに別々にご記入下さい。)

氏名: _____

調査場所:メッシュコード:

--	--	--	--	--	--	--	--

_____市町_____番地_____

(調べた場所をできるだけ詳しく教えてください。)

目印になるもの(橋とか構築物):

調査日時: __月__日 : AM ; PM__時 ~ __時 : 天候 ; _____

調査項目(各該当項目(イ、ロ、…)を で囲んで下さい)

1) 調査した範囲で、オオヨシキリの声を聞きましたか?

イ; はい ロ; いいえ

2) 調査した範囲では、過去にオオヨシキリの声を聞いたことがありますか?

イ; なし

ロ; ある 毎年 ; _____年前

3) 査地で確認できたオオヨシキリの数?

イ; 0. ロ; 1. ハ; 2~5. ニ; 5~10. ホ; 10以上

4) 調査した環境は?

: イ; 琵琶湖湖岸 ロ; 河川・水路(幅_____m) ハ; 田んぼ(耕作中)

ニ; 田んぼ(休耕田) ホ; ため池 ヘ; 畑地 ト; 草原 チ; 藪や雑木林

リ ; その他()

: 水辺からの距離は_____m

: イ; 人がほとんど入れない ロ; 人が入れる ハ; 車道があり交通量(多い・少ない)

5) 調査した範囲(オオヨシキリがいた場合はオオヨシキリがいた範囲)には、ヨシ帯はありましたか?

